

所報

No.34

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 09526-2-5211

もくじ

○ 試行錯誤	1
○ 生徒実習開始 一電子計算機・NC工作機械	2・3
○ 研修講座の受講風景と受講者の感想	4・5
○ 「痛感」教師の指導の手立てを 一昭和57年度教育実践・研究記録入選者の声	6
○ 小学校道徳の時間における『展開段階』での教師の表情と動作	7・8
○ 形成的評価を位置づけた単元指導計画	8・9
○ 子どもの心を大切にした「問題行動」へのかかわり	10・11
○ わたしのすすめる一冊の本	12
○ 昭和58年度 教育実践・研究記録募集	12

試行錯誤

佐賀県教育センター所長 平林利夫



当センターでは、一つの講座が終わるごとにアンケートを受講者の方々から提出して頂いているが、私も、各講座のまとめの報告の中で、特にこのアンケートだけは全部目を通して色々と次の対策に役立たせもらっている。

記入項目の中で、年齢・性別は傾向把握の上で必要だが、記名は本音を聞かしてもらうという意味で今年から省いた。一面では無記名なのでと心配もしたが、記入された内容は、記名された昨年も記入されない今年も変わることのない真面目な記録で、心配したことを見ずかしく思った。そして無記名であるからこそ本音だと思い、又嬉しく思ったのは、講座を高く評価して頂いたのが沢山あったことである。「自分の知識のみでやっておったことで悩んでいたが道が開けて希望がもててきた。」「他の先生方の発表又は交流を通じてやる意欲が湧いてきた」等の文章をみると、所員もやりがいが出るだろうと感謝したい気持ちであった。

物事の向上には必ず試行錯誤が伴うものだと思うが、時には脱線が意外な効果をもたらす。その手法はペテランの先生方程多くの手段を持っておられる。私の中学時代の恩師で角田桃太郎先生という方がおられた。佐賀工業の校長先生を最後に退職されたが、この先生は数学の先生で、授業での導入が実際に素晴らしいかった。この先生は、決して最初から $(a+b)^2$ はなんてこ

とから入らなかった。時には天下の情勢、あるいは昨日会った知人の発言等世間話からいつの間にか授業に入っていた。

ここで当センターで予定外の事が行われて大成功（私はそう信じている）だったことを紹介したい。それは8月に行われた高等学校英語科運用力の講座の中であった。たまたま甲子園で鳥栖高校の試合が行われていた時の事で、受講者の中には鳥栖高の先生もいた。テレビを見たいの願いが講師（佐大の先生 Mr. Herlofrky と県指導主事助手の Mr. Rink）に対して出された。その時の対応が美事であった。では皆さんという事で LL 教室のモニターテレビに実況放送が流れ、受講者は個人用のヘッドホーンを耳にあてる。解説は英語で流された。これは講師の日本語の理解力がなければ到底出来ないことではあるが、自はテレビを頭は英語を日本語にと、私も後ろからこれを聞いてつい嬉しさでニコッとなつた。担当所員の話では解説は鳥栖びいきで今のはボールでなくストライクだと思うなどの付け加えがあり、しかもこの試合は鳥栖の大勝利でありすべてメダシメダシであったとか。いつもこの様な授業が出来るとは思われないが、授業担当者の心構えで、いくらかでも出来るのではないかだろうか。恐れずに試行錯誤をして頂きたい。

生徒実習開始

一電子計算機・NC工作機械一

はじめに

本年4月から、当教育センターの大型電子計算機を使い、県内の商業高校、工業高校を対象として生徒実習が開始された。

この実習の指導は、各学校の指導担当者と教育センター所員の連携のもとに行われ、その内容は各学校の教育計画に基づいて作成されている。実習には電算機実習（フォートラン・コボル等）とNC工作機械実習の2分野がある。

7月末現在で37学級（1,505人）の生徒が実習を完了している。なお、59年3月末までに100学級の実習を予定している。

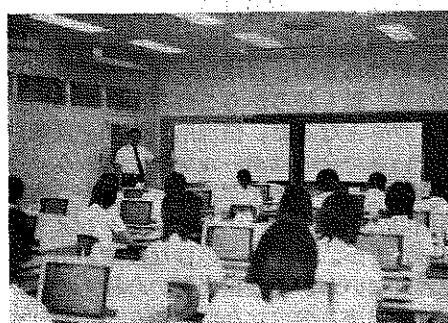
1. 電子計算機導入校の実習

各学校において、「電子計算機一般」という形で一應の学習をしている生徒たちを対象とした実習である。とはいっても、学校に設置されている機種と教育センターのそれとは異なるので、新たに指導を加えなければならない。他の大型機種の操作法を学習することにより、コンピューターに関する認識の幅を広げる効果を持つのである。また、完全なTSS（会話）方式による実習があるので、むだがなく効率的な技能の習得が可能である。

将来、会社等に就職した場合、いろいろな機種の操作が要求されよう。そのような時の基礎として本実習が生きて働くことになれば幸いである。

<生徒の感想>

緑にかこまれ、静かな教育センターでの実習



端末装置の操作練習風景

マシニングセンタ



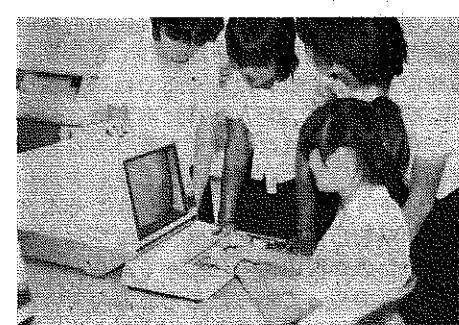
を終えて、わたしは、ある満足感をおぼえた。清潔な室内で、最新のコンピューターを操作していると、心ひきしまる思いであった。学校とは違い56台もの端末装置がそろっており、各人が一齊に操作できるのだ。そして自分でプログラムを組んで成功した時の喜びは、何とも言えないものであった。

今回の実習によって、コンピューターに関して、もっと詳しく、いろいろなことを学びたいという意欲がわいてきた。

2. 電子計算機未設置校の実習

コンピューターを実際に見たことのない生徒たちであるので、見る物、聞く物が新しく映る。従って、実習前の生徒たちは、少なからず不安と緊張感を抱いていたようである。が、順序だった操作過程の説明や基本的な指導が加えられると、だいぶ緊張感もとけて笑みもこぼれてきた。

光学文字読み取り装置で手書きの文字を読みだり、ワープロで漢字を入力できた時などの生徒たちの目の輝きは美しく、印象的であった。



端末装置の操作練習風景

<生徒の感想>

教育センターへ、コンピューターの実習に行くと聞いた時、どんなことをするのだろうか、難しいだろうな、などといろいろ考えた。

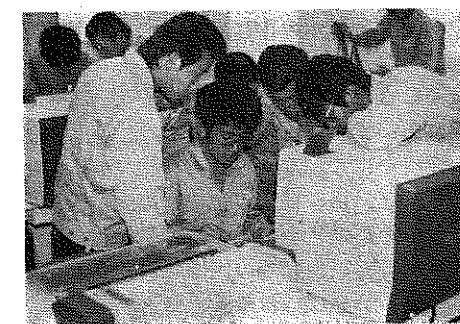
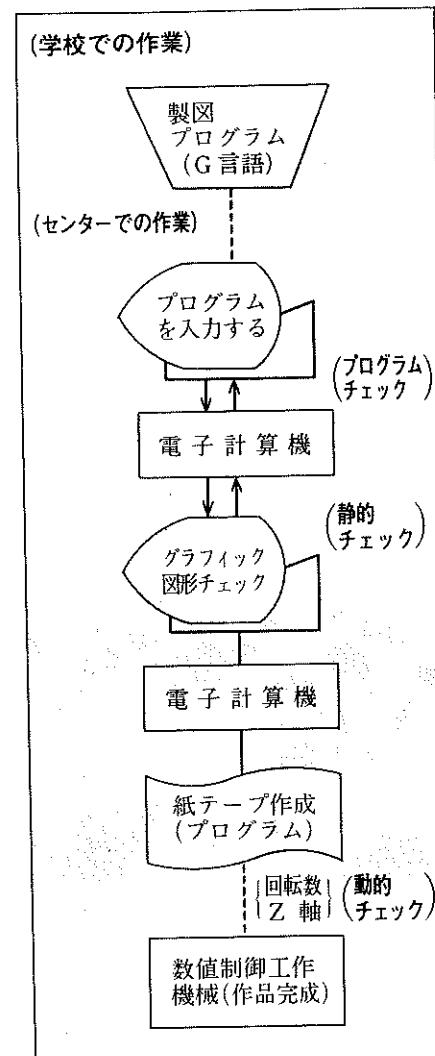
実際に操作してみると、とてもおもしろく、もっと難しいプログラムも組んでみたくなった。実際に操作してみると、とてもおもしろく、もっと難しいプログラムも組んでみたくなった。

プログラム作成の過程は、一回の誤りも許されない。そのような正確さを要求するコンピュ

ーターを使いこなすためには、慎重さや、正確な思考力を備えておくことの大切さを改めて考え方させられた。

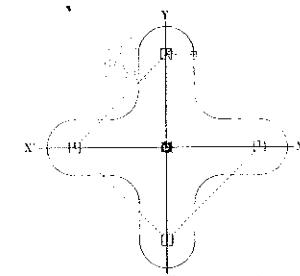
3. 工業高校生対象の数値制御工作機械実習

実習の流れ図

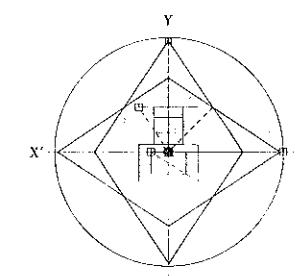


グラフィックディスプレイ装置による
図形チェック風景

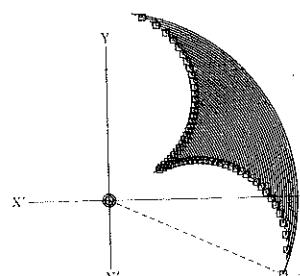
NC実習作品例 (図面)



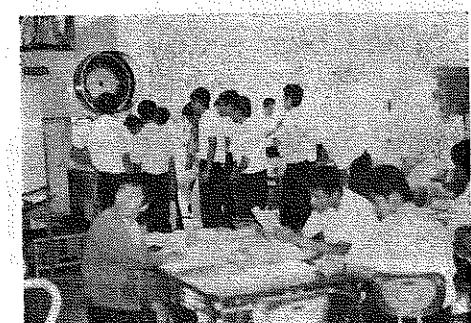
直線、円弧補間および固定サイクル練習



直線補間プログラム練習



円弧補間プログラム練習



数値制御工作機械実習風景

おわりに

生徒実習を開始して3か月経過致した。この間に示された各学校の先生方の献身的な事前指導に対して敬意を表すとともに、そのご協力に対し心から感謝申し上げる次第である。

(情報処理教育係
係長 石動丸 大晃)

研修講座

受講風景と受講者の感想

幼稚園教育実技講座と私

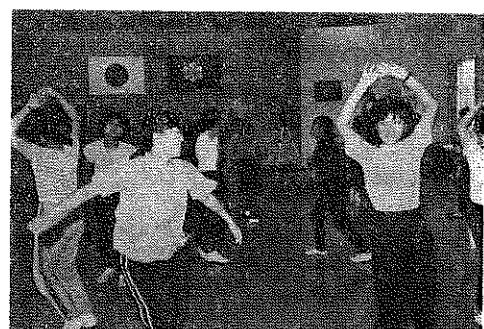
多良町大浦幼稚園 教諭 安藤 慎子

今年も3日間があつという間に終わりました。マンネリ化しがちな保育を見直すには、講座を受けるのがいちばんと、昨年に続いての受講となりました。

講座に参加すると数多くのメリットがあります。先ず、講義は実際問題に即したものが多く問題解決ができます。ついで、他園の多くの先生方との語らいの中に、いろいろなものを見い出すことができます。そして、何よりもいいことは、自分自身に、やってみようという意欲がわいてくることです。

今年も多くの経験をし、再認識をしました。先生自らが体を動かすことにより、子供の心を揺り動かし、子供にやってみたいという意欲を持たせ、すんで皆の中へ入っていける態度を身につけさせるとあると痛感しました。

意欲をなくした最近の子供たちに、与えなければならないことを、身にしみて感じ取りました。



楽しくダンス・幼稚園実技講座

小学校音楽科実技基礎講座に
参加して

鳥栖市立鳥栖北小学校 教諭 平山フジ子

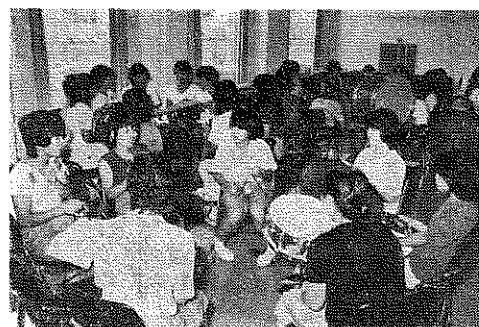
「あーこれでわかった」と、思わず私の心は喜びでふるえた。嬉しくなり早く帰校して子供と共に「コーラスをやりたい」と心の中でつぶやいた。というのは、毎日悩み続けている問題点があり、どうしても解決したいと模索してい

たためだろうか。だからこそ、教育センターの音楽実技講座が身にしみて有難かったのだろう。

まず第一に、「発声と歌唱の実技」では、呼吸の仕方、明るい歌声づくり、また全学年の共通教材全曲の取り扱いを通して曲の特色を生かした指導法や留意事項など、得るものが多くなった。

次にリコーダー実技では、笛を使用する前の段階的な取り扱い、タンキングと呼吸法、美しい音色の作り方など実に明確で参考になるもの多かった。他に指揮法、打楽器の奏法、グループ別演奏発表など楽しい時間であった。

「ローマは一日にして成らず」講座で得たものを今後の指導に生かすべく努力していくたい。



楽器を持つ手に心がはずむ・音楽実技講座

中学校理科講座に参加して

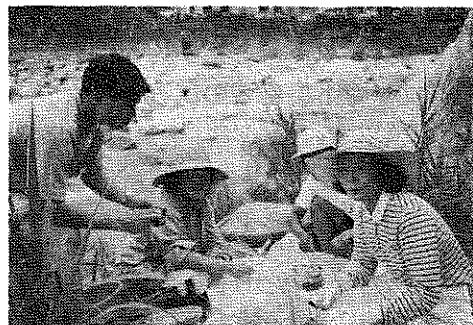
三瀬村立三瀬中学校 教諭 夏秋 正倫

受講1日目、大川中学校、田中先生の指導のもとに、嘉瀬川と祇園川の水質調査に出かけました。はだしで水の中にはいり、生物採集、瀬の石の裏などから、かなりたくさんの生物を探集することができ、まずはその成果。途中、夕立ちにあい、びしょぬれになりながらも、元気でセンターにもどりました。

そして2日目、採集した生物の固定作業、昼食もそこそこに、全員熱心に顕微鏡とのにらみ合い、その結果、二つの川は非常にきれいと出て、一同、胸をなでおろしていました。

生物は正直で、水質が変われば、そこに住む生物の種類、数がたちどころに変わり、汚染が

進めば生物さえもいなくなる。これは人間にとて大きな問題、生徒にも、このことを充分に理解させねばならないと痛感しました。そして私自身、ほんやりとながめていた川も、注意して見るようになりました。



野外観察もまた楽し、中学校理科講座

英語運用力講座に参加して

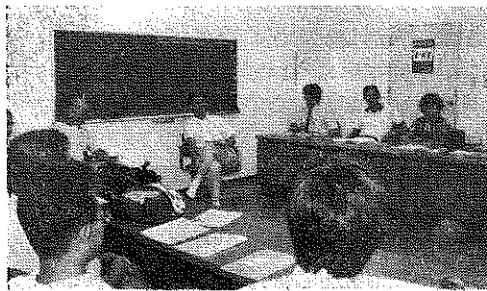
厳木高校 教諭 福川 博夫

三日間を通して、大変素晴らしい研修ができたと思っています。印象に残った講義、プログラムについて書きたいと思います。

第一は、国際コミュニケーションについて。日本人の社会は、三層で成り立っている。一層は、年上の人、二層は、同年代、三層は、年下の人。我々は、この三層の人間には、処しかたを知っている。ところが、この三層の中にもう一層、外国人（白人と有色人種では、またちがう。）を入れなければならない。概して、日本人は、前の三層の処しかたは知っていても、新四層の処しかたを知らないのではないか。これは、多くの例を講師が示してくれた。

さて、我々はこの事態をどうしよう。この問題は、大変難しい。

第二は、スピーチ。私は原稿なしで3~4分話したのは、初めてがありました。研修を通して自信がついたのではないかと思っています。

外人講師を囲んでのディスカッション、
英語科運用力講座

〔受講者への提言〕

「私の実践例」の持ち寄りを

佐賀大学教育学部 助教授 白石寿文



ことばの学習指導は、実践の積み重ねによって成果が生まれます。その実践は、しっかりした理論に支えられていなければ、学習者の苦労に比し、学力の伸びが少くなります。しかしその理論は、実践によって導かれるものです。実践があればこそ、秀れた理論が生み出されるのです。しかも自分自身の毎日の実践に、よりよき理論の拠りどころもあります。もっともっと自分自身の実践を見つめ、生かして欲しいとしみじみ思います。

例えば新単元に入ったら教材を通読することがあります。なぜ通読したのでしょうか。なぜ挙手指名による音読で通読したのでしょうか。……意識的或いは無意図的に「通読」した結果は、授業展開上、どういう意義をもったのでしょうか。第一通読の方法、形式は、多様です。その教材、そのクラス、その教師に最適の第一通読は、どのように決めればよいのでしょうか。それを決める条件は、一定ではありません。一般理論で片づけるのは、教師・児童・教材の各々の個性・特性を殺すことになります。

自分が実践した、わが学級の児童への第一通読の具体資料を持ち寄り、その現実を検討することで、筋の通った（理論的に正しい）実践への自信が培われてくる筈です。

毎時間の冒頭の5分間だけを録音にし、文字化して見直すことも可能です。一単元の板書の全てを資料として検討できます。A君の発言や文章を幾日分か追跡調査したものも貴重な研究資料となり、次の指導に直結できます。

他人の理論や実践例を吸収するのは、とても大切なことですが、ふしげに自分の教室にもちこむと力を発揮しません。それは、自分自身の授業実践の特質と問題点とがつかめていないためである可能性が高いと思われます。ご自身の日々の歩みをこそ、じっくり見すえ、教師仲間の検討を求める試みを試みたいものです。センターは、その最良の場だと思います。

昭和57年度教育実践・研究記録入選者の声

「痛感の教師の指導の手立てを」

◎ 「入門期のかな文字指導——かな文字のとりたて指導」

佐賀市立神野小学校 教諭 荒木 信衣

名前さえ書けなかった子どもたちから、はがきいっぱいに書いた便りをもらう時、私は子どもたちの力のすばらしさに一種の感動を覚えます。昨年の研究は、そんな子どもたちによって教えられ、考えさせられるものばかりでした。

子どもたちも1年生から2年生へと進級しました。教科書を開くと次から次に出てくる漢字に目を丸くしています。漢字に興味をもち、かつ楽しい授業づくりに今、力を入れています。

◎ 「基礎学力を育てる算数科学習指導——到達度評価を生かした低学年指導」

鹿島市立鹿島小学校 教諭 池田 良治

今までこの様な研究を手がけたことのなかつた自分にとって研究の大切さを痛感できたことは大きな収穫だった。研究の方法さえ知らずに始めたわけだが、本を真剣に読むようになり、子どもの問題をとらえ、どう対処すべきか自分なりに考え、実践できたことは、今までの苦しみを忘れ、これから教育実践に大きな自信を与えてくれた。しかし、まだ研究を始めたばかりである。この研究を土台にして、更に一步研修を深めていきたい。

◎ 「色に対して興味を持たせる指導——中学年における水彩絵具での表現を通して」

佐賀市立本庄小学校 教諭 百武久美子

昨年の夏休みは、子どもたちの作品を前に、論文をどのようにまとめたらよいかと、苦慮しておりました。改めて冊子を開くと、あの時の子どもたちは、その後どんな絵を描いているかなと思います。

今年度(58年度)は、新しく二年生を担任していますが、工作に関心を持ち、いろいろな指導を試みています。自分の考えたものを、一心に作っている子どもたちの様子を見るのが楽しみです

◎ 「高校『日本史』授業における『プリント』学習の試み」

佐賀西高等学校 教諭 吉田 宗利

歴史を教えることが、単に縦羅的に語句の暗記を強制するだけなら、面白味のない作業でしかない。「歴史を学ぶ」中から、「歴史的な見方・考え方」を身につけさせる事が歴史教育の真のねらいであると思う。その為には、生徒の「興味・関心を喚起する」事が第一であると考え、「教材の発掘」につとめている昨今である。「何を教えているのかわからない授業」「学ぶ主体は生徒である事を忘れている授業」にならないよう頑張りたいと思う。

◎ 「教育目標の具現化——生徒を変容させる実践化をめざして」

伊万里市立国見中学校長 西山 経喜

地域や生徒の実態に立ち、基本的生活習慣の確立・基礎学力の定着・基礎的体力の充実などを一元化した具体的な学校教育目標を学年経営・学級経営の中で、学級担任はもとより全教師が明確に捉え、生徒とできるだけ多く触れ合うことにより、一人ひとりの生徒をよりよく理解し、個別指導も定着してきた。その結果、生徒指導上大きな効果が表れ、生徒の中には自校の誇りを持つ者も多くなり、生徒非行もほとんど起きなくなってきた。

◎ 「重度心身障害児の発達の可能性を引き出し育てる集団指導」

中原養護学校重心部 教諭 徳永 良治

記録が入選し、責任の重さを感じている。重心児の集団指導について更に研究を重ね、去る6月の九病連福岡大会で発表したが、ここでも反響を呼び、意を強くしている。58年度は「重度・重複障害児の発達を促す指導法」というテーマを設定し、教育効果を更に高める集団のあり方について、その理論と内容・方法の研究を進めている。何分この分野の研究事例や文献が少ないので、成果についての御批判や指導の機会が得られれば幸いである。

一小学校道徳

小学校道徳の時間における「展開段階、での教師の表情と動作

——児童と資料のかかわり——

1. 道徳の時間の指導をするに当たって

(1) 道徳の時間とは

道徳の時間の指導は、日常生活の行動の仕方を直接に指導するのではなく、児童一人ひとりが社会における人間の在り方にについて自覚し、道徳的実践力が向上することを目指し、道徳的価値について児童の考え方、感じ方を深めていくことをねらっている。

(2) 道徳の時間の指導前における検討

日ごろ、学級経営がうまくいっていることが大切であるが、次のことを道徳の時間の指導前に十分検討しておくことが必要である。

① 指導すべき内容の道徳的価値に対する教師自身の考え方、つまり、価値観は確立しているか。

② 指導すべき内容の道徳的価値に対する学級の児童の実態はどうであるか。

③ 上記2点に基づくねらいが明確にされているか。

④ ねらいに迫るために、資料の選択と内容の分析はできているか。

⑤ ねらいを達成するための指導過程はどうあるべきか。

2. 道徳の時間における資料の活用

道徳的価値を理論的な説明によってのみ理解させようとしても効果は少なく、児童一人ひとりを内面的自覚にまで高めることはできない。そこで、指導のねらいとする道徳的価値に関する行為が表されている具体的な一事例としての資料を通して、特定の状況の中での主人公やその他の人物の考え方、感じ方を学習させ、共感や批判等を持たせることによって自己を見つめさせる方法がとられている。

そのように共感させ、また批判や反省をさせるには、まず、前提として児童一人ひとり

が資料の内容、特に主人公などをとりまく状況をしっかりと把握していないくてはならない。そのため、教師は、内容の大重要なところの状況を表した絵や主人公などの表情などを描いた切り絵などを活用したり、主人公などをとりまく条件について発問したりする手法をとらなければならない。

3. 道徳の時間の指導における教師の表情と動作

前項で述べたような手法が大切であることはもちろんあるが、一般に教師があんがい見逃している点として、指導する際の教師自身の表情や動作がある。それは、児童一人ひとりの実感を高め、また適切な反応を引き出し、ねらいに迫る手だてとなると思われる。試みた一例を示してみたい。

主題名 あしたは えんそく (2年)

主題設定の理由 (省略)

※ 資料の内容

さるが仲よしのうさぎたちとほたるがりに行き、ほたるをたくさん取る。さるはおもしろくなり、友だちが明日遠足だから帰ろうと言ってもきかず、自分だけ残ってむちゅうになってほたるを取る。そして、さるは家に遅く帰る。そのためには、さるは寝坊して約束の場所に友だちを長く待たせる。友だちは待ちくたびれて出かける。さるはそのあとを追いかけるが、とうとう追いつけて困ってしまう。

ねらい

わがままな言動は、自分が困るばかりではなく、他の人まで迷惑をかけることを理解させ、わがままをしないで生活をしようとする心構えを持たせる。

計画 1時間
展開

学習活動	主な発問
(前省略)	
○寝坊して走って いたさるの気 持ちを考える。	○寝坊したさるはどん な気持ちで走ってい ったのだろうか。
(後省略)	

この主題の指導では、資料の内容を絵にして使ったが、それと同時に発問の内容に関する動作や表情を取り入れる手法をとった。例示の発問の場合、絵やことばで十分に表すことのできない場面、すなわちさるが汗をかき困った顔をしながら精いっぱい走っていく場面で、主人公であるさるの顔の表情や動作を取り入れた。

- (その時のさるの心情についての児童の反応)
- C. もう(遠足)行っているだろうなあ。
 - C. みんな待っているかなあ。
 - C. 帰ろうとみんなが言った時、帰ったらよかったです。
 - C. あんな遅くまでほたるを取らなければよかったです。
 - C. 遠足に遅れたらどうしよう。
 - C. ほたるを取らなければよかったです。
 - C. 心の中で、自分勝手はごめんねえと言

一中学校数学

形成的評価を位置づけた単元指導計画

1. 形成的評価の必要性

平素の授業の中で、どのような手立てをとれば、今日の授業は「わかった」という声が聞けるか、その指導について頭を悩ますものである。

このことから、最近授業の進行過程における生徒への学習評価の意義が強調されるようになってきた。即ち生徒が学習内容についてどの程度理解できたか、またどこでつまずいているかをチェックし再指導を行うことにより、わかる授業を目指す指導法の改善を行うものとして、その必要性が叫ばれている。

2. 形成的評価を生かす授業設計の手順

- (1) 単元の目標分析をする。

っている。

目ごろ、教科の学習の中で発言しない児童も表情と動作を取り入れるために、さると共に感しながら発言している。

教師が発問の内容についての表情や動作をしながら発問することは、どの児童にも興味を持たせ、資料内容の理解を助け、資料の中にとけこませ、イメージをふくらませる作用をすると思う。

この手法は、主人公などに対して共感させたり批判させたり、さらに自己を反省させたりして道徳的価値を追求、把握させていくのに効果があるようである。もちろん、指導のねらいに即して資料を読む際、教師自身が状況、主人公などの気持ち、それに伴う表情や動作をしっかり把握しておくことが必要である。

また、教師の表情や動作だけに児童の関心が向いてしまい、ただ「おもしろかった」、「楽しかった」で道徳の授業が終わらないように配慮することも忘れてはならない。

4.まとめ

同じ資料を使っても、どれだけ児童一人ひとりの心に響くものになるかは、指導する教師の資料分析力と表情や動作の表現力に左右されるものだということを痛感するものである。

(所員 谷口 浩)

- (2) 事前評価問題を作成する(レディネス、プレテストなど)

- (3) 指導計画を作成する。

- (4) 形成的評価問題を作成する。

- (5) 学習展開を作成する(指導案の作成)

3. 指導計画作成上の留意点

単元指導計画は題材名と時間配当を書くのが一般的な形としてとられているが、指導目標をより具体化した到達目標を設定し、指導計画の中に組み入れることが必要であろう。このことが指導と評価の一体化につながり、ひいては教師が目標を提示することにより生徒は学習のねらいがはっきりつかめ自己評価もしやすくなると考えられる。

4. 問題作成およびテスト実施後の留意点

形成的評価問題を作成するに当たっては、基礎的・基本的内容について作成する。從って知識、理解、技能にかかわるもののが中心となろう。形成的評価としては単位時間の中で考える場合と各節を通して、あるまとまりをもった学習内容の節目に位置づけて計画する場合がある。

後者の場合で、中学校2年教材「一次関数」を例にとれば §1一次関数、§2一次関数のグラフの学習終了段階に位置づける。この段階で形成的テストを実施し、その結果によってプランニングによる指導をする(自己評価が中心)。

即ち、達成の度合によって60%以下ならば補充学習へ、60%~80%以内ならば深化学習へ、80%以上ならば発展学習へと、それぞれの生徒の理解度の状況によって取り扱う問題の難易を考慮して作成する。この段階を個別学習の場として捕らえたい。

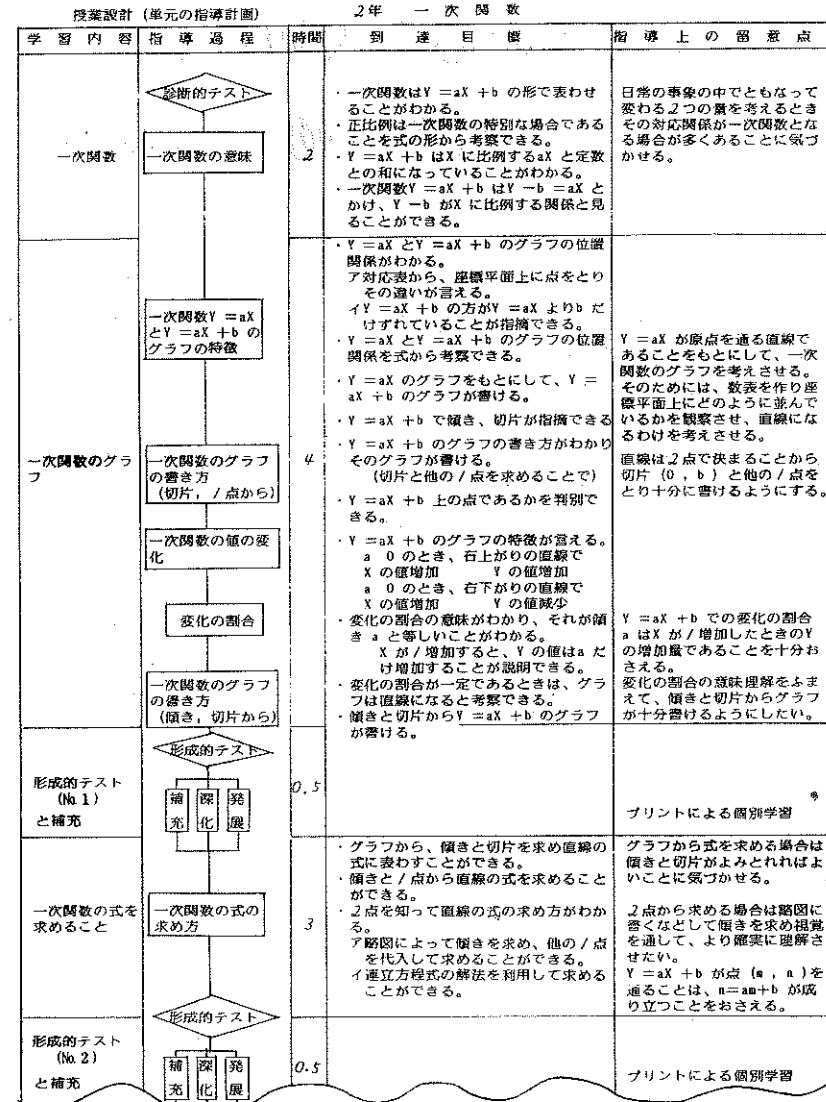
5. 形成的評価機能の再確認

指導計画の中に位置づけた形成的評価(テスト)は評定に用いるのではなく、指導目標に達成したのかどうかを確認するためのものであることを生徒にも意識させることが大切であろう。つまり、形成的評価のねらいはフィードバック機能にあることの認識が大切であると考える。

(所員 光武 一行)

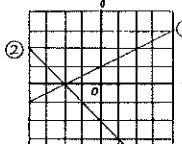
6. 事例～中学校2年「一次関数」～

(指導計画の一部と形成的テスト問題の一部)



形成的テスト(No.2)

1. 次のような直線ではそれぞれどんな関係のグラフと考えられますか



2. x , y の関係を式に表わしたら次の直線になった。 x , y の関係を式に表わせ。

① 傾きが 3 で、切片が -2 である直線

② 傾きが 5 で、点 $(2, -3)$ を通る直線

③ x の値が $/$ 増加すると、 y の値は 5 増加し点 $(0, -4)$ を通る直線

④ 2点 $(1, 4)$, $(-3, -2)$ を通る直線

—教育相談—

子どもの心を大切にした

「問題行動」へのかかわり

1. はじめに

今年上半期の少年非行の概要が警察庁から発表された。

それによると、全体の中で、中学生、特に14歳、15歳の少年犯罪の割合が昨年よりさらに大きく上回っている。また14歳未満の触法少年の増加もあり、非行の低年齢化の傾向はますます

相談内容

	年度	56年度	57年度
主訴			
登校拒否	87.5%	51.6%	
非行	14.7%	20.6%	
異常行動	23.8%	20.6%	
その他	24.5%	7.2%	

主訴とする相談ケースが増加している。

ここに示されている数は学校でみられる子どもの問題行動の中でも、補導されたり、あるいは登校できなくなるなど、著しい問題行動としてとらえられる範囲のものである。ここに至る以前の問題行動を顕在化している子どもや、軽い兆候で示している子どもは、相当の数になると推測できる。教育センターで実施される講座に参加してくださる先生方の声には、学校でかかえている子どもたちに「今、目の前にいるこの子を何とかしてやりたい。」という切々たる思いがあふれていることを強く感じる。

2. 「困った行動」と思われる子どもの状態

学校の子どものことで、「今、困っていること」を話してもらった中から紹介すると、

① 小学校2年生（男子）……事例1

1年生の時から乱暴な行動が目立っていたが、このころは、パンツを脱いだままでみんなの前を歩いたり、昆虫を捕らえるとばらばらにむしり散らしたりする。注意するとわざとやるという傾向がみられる。奇声をあげるので、他の子どもの注意がそれで授業が成り立たない。

母親に会って話をすると、「この子さえいなければ」と愚痴っぽく言うし、子どもを激しく叱りつけている。

このままでは、問題行動は多くなる一方だし、また危険な行動（マッチで遊ぶ）もでてきているので早く対処しなければならないが、どうしたらいいだろうかと悩んでいる。

② 中学校1年生（男子）……事例2

体格はよく、スポーツは何でもこなす成績も上位の子どもである。自分がすべての中心として存在している時はよく活動するが、教師が他の子どもを認めるようなことばをかけると、「ふいっ」とふくれてしまい、全員参加の行事にも加わろうとしない。

この子どもを、いつもおだてて学級を動かすうまくいくが、それだけでは、この子どものためにはよくないことだと思っている。

③ 高校1年生（男子）……事例3

授業中は教室にいるが、休み時間や昼食時には教室にいることができず校庭の隅っこにいたり、職員室に来て、みんなが乱暴だと、教室が騒がしいとか、担任にまるで小学生のように訴える。甘やかしてばかりいては教室になじめないだろうと思って「がんばれ」と励ましているが、一向によくならない。むしろ、以前より職員室に来たがる傾向が強くなっている。

教室を見渡すと「気になる子ども」は必ず存在するもので、ここに紹介した事例は、問題行動が、かなりはっきりと表れているものである。このような子どもの行動は、教師にいろいろの思いを起こさせる。④困った子どもだ。⑤〇年生にもなってこれくらいのこともわからないのか（できないのか）、⑥今のうちに何とかしてあげなければ……⑦学校だけがんばっても親がわかってくれなければどうにもならない、等々その子どもについて、気がかりな思いが大きくふくらんでくるのではないだろうか。

しかし、ここで大切なことは、困った行動をやめさせるために何を指導すればいいのかということではなく、この行動は、この子どもにとってどんな意味があるのだろうかとまず考えてみることである。

第34号

3. 「困った行動」は子どもから、教師（親）への訴え（サイン）である

事例1 の子どもの問題行動について考えてみると、この子どもに「みんなの勉強のじゃまになるから大きい声は出さないでね。」とか、「恥ずかしいことだからズボンをはきなさい。」と言いきかせても、その時、その場での行動は押さええることができるが、本当に効果があるわけではない。また同じことが繰り返されたり、違った行動が表れたりする。それは、この子どもなりに、今こうしなければならない理由があるのに、そのところにはかかわってもらはず、問題行動を制止することに教師が熱心にかかわってしまうからである。

この子どもの行動については次のことを考えてほしい。

1. どんな状況の時に奇声を出しているのか。
2. パンツを脱いだままで歩いたり、虫をばらばらにしている時、教師はどんな対応をしているのか。
3. 困った行動をしていない時、教師はこの子どもにどのようにかかわっているのか。

教師が、こんな思いで、この子どもに注意を向けていくと、今まで見過ごしていたようなことに気がついてくる。例えば、④授業中の奇声は始まってすぐではなく、しばらく時間が経過してから発している、⑤絵をかいたり、体を動かしたりしている時には奇声は出さない。⑥学級の子どもがにぎやかに動いている時に、自立した行動をする、⑦ひとりでおとなしくしている時は、教師もほっとして一息ついているような感じになる。などと、この子どもを中心とした教室の状況や、教師自身の気持ちの動きがわかるようになってくる。

ここから、この子どもに対して、さし当たりどのように対応していくべきかという方向が見い出されると思う。

1. まず、この子どもと教師が一对一で遊ぶ時間を作ってみる。
2. 問題行動を出していない時に、快いかかわりを持つ。
3. 自立行動に対しては、みんなの前で制止せずに、他の子どもの関心をそらして、できるだけ、その行動にかかわらない。
4. 家庭での様子、特に母親とのかかわりについて話をきき、その後の連絡がとり合えるようにする。

このような教師の子どもの行動に対する見

方、かかわり方の変容は、子どもの行動、状態にも影響を及ぼす。それは、子どもが、教師に対して問題行動という形でしか求めることができなかつた心の世界に、教師が、かかわりを持つことができるようになるからである。

この子どもは、

- 自分を教室の中に受け入れてほしい。
- 自分を大切にして、かかわってほしい。

という要求を伝えたいためで、このことを周囲が受け入れることのできる形で表現できれば、問題行動にはならない、ごく自然な、当たりまえの心の動きなのである。

しかし、このような形でかかわりを求めるようとするこの子どもの内面は、もっと多くの問題があると思われる所以、教師は母親とつながりを持つことが大切である。子どもと母親とのふれ合いの様子を確かめながら、さらに、この子どもの心を理解するためのかかわりが必要なことになる。

4. 子どもの問題行動の背景

子どもに限らず、人は相手とのかかわりで快い感じを得た時に安定した満足感を味わう。とりわけ、小さい子どもは、母親とのかかわりで丸ごとの自分を無条件に受け入れてもらえるという基本的信頼関係が獲得できないと、人との関係のとり方でつまずいてしまう。母親に認めてもらえない子どもは、何とかしてほめてもらおうとするが、それに対して母親の態度が否定的であれば、いつのまにか、叱られること、否定されることでかかわりを求めるようになってしまふ。逆に、母親が常に子どもを保護し、支離してしまうと、子どもは自分の世界を広げていくための友達とのかかわりで、都合のよいことだけを受け入れ、嫌なことは避けて安全な母親のもとに逃げこんでしまう。事例2の場合には、後者のことが考えられる。

一般に、子どもの問題行動の背景をさぐっていくと、乳幼児期における母親（それに代わる養育者）とのかかわりがどうであったかということにまで逆のぼっていかなければならないことが多い。またそのことが子どもの心の発達を知る手がかりにもなる。事例3の子どもは、社会性の発達において遅れがあると思われる。

目の前の子どもの問題行動は、今、何を訴えようとしているのかを理解するために、その子どもの発達に目をむけることも大切なことである。

（所員 島 裕子）

私のすすめる一冊の本

- 「ニッポン再発見」（日本工業新聞社）

清水 韶八郎

- 私たちには、日本は国土も耕地も狭く、資源も乏しいという固定観念があり、国土に誇りも自信も特に感じていなかった。

この書は、日本発展の要因を地理的風土的視点から論じたもので、光・水・土・緑に恵まれ、生産性の高い風土と、そこに育くまれた文化や習俗が、経済発展の原因となっていることを指摘している。視点を変えてものを見、考えるためにも一読に値する書であろう。

（佐賀市立若楠小学校）

校長 谷島 俊四郎

- 「家庭の教育相談」（新日本法規）

品川不二郎・品川 孝子

- 青少年の教育問題が論議されている今日、それを解説する資料の中に問答式による書が多い。この書は家庭教育のあり方を対象にしているが、学校教育にも役立つので教師も一読して参考にするとよい。内容は15部類に分けられ、ほとんどの問題に触れていて、しかもやさしく解説されている。

私は、校内の事例研究、P.T.A懇談会、育成会等の資料に役立てている。

（伊万里市立伊万里小学校）

校長 岩永 融

- 「子供の四季」（新潮社）

坪田 譲治

- 教育を見直す秋、現場の教師はじっくりと子供を見直すことが必要と思われてならない。

子供の心の動きを具体的に生活実態の中から知ることから教育を見直すことが始まる。「子供の四季」の少年たちは無垢、天真爛漫で、野性にあふれ、大人にも生きる力を蘇らせるほどの活力にあふれている。現代の子供の生活と比較するとき考えさせられることが少なくない。

（鹿島市立東部中学校）

校長 家永 忠

- 「徳川家康」（講談社）

山岡 莊八

- 眠る時間もおしい位にして全26巻を読み終えたとき、爽快感と躍動感が心地よく全身を包んで余韻がいつまでも残っていたのを覚えている。長い行政職勤務から一時、教育職に帰って来た2か年間は、戦時中活字に飢えた私が戦後の出版物に飢えた狼のようにむさぼりついた様子に似ていた。そのときの最大の収穫がこの本だった。特に管理職の方におすすめしたい。

（佐賀県立小城高等学校）

校長 水田 正則

昭和58年度

教育実践・研究記録募集

児童・生徒の学力向上を図り、豊かな人格の育成をめざして、先生方には、学校教育のそれぞの分野で、研究・実践を重ねておられることうと思います。

学校全体で、グループで、あるいは個人で、研究・実践されております貴重な記録を整理し、論文にまとめ、奪って御応募ください。

応募〆切 昭和58年12月7日（水）

なお、詳細については「昭和58年度 教育実

践・研究記録の募集要項」を各学校に配布しておりますので、それを御覧ください。

※ 問い合せ先

佐賀県教育センター研修一課教科係

ゆたかな心 あふれる気力

学ぶ教師に子どもがひびく